

〔泌尿紀要14巻9号〕
1968年9月

泌尿器科領域における CG-201 錠の応用

神戸大学医学部泌尿器科学教室（主任：石神襄次教授）

石 神 襄 次
原 信 二
柴 務

CG-201, A NEW ANTISPASMODIC, IN UROLOGICAL PRACTICE

Jōji ISHIGAMI, Shinji HARA and Tsutomu SHIBA

From the Department of Urology, Kobe University School of Medicine

(Chairman : Prof. J. Ishigami, M. D.)

Sugar-coated tablets of CG-201 were administered to thirty patients complaining of pain due to various urological conditions.

The results were excellent in 10, fairly effective in 10 and noneffective in 10. The medicine showed a remarkable analgesic and antispasmodic effect for stone colic or localized urethral pain.

緒 言

最近、西独 Grünenthal 社により研究開発された新鎮痙剤である CG-201 錠を、各種泌尿器科患者に応用し、その鎮痙効果を観察する機会を得たのでここに報告する。

本剤の化学名は Benzilic acid (N, N-dimethyl-2-hydroxymethylpiperidinium) ester methylsulfate で, piribenzil methylsulfate なる一般名で呼ばれている。薬理作用としては、著しい抗コリン作動性と向筋性が認められており、また臨床実験で各種臓器の痙攣、疼痛にきわめて有効な治療効果を有し、さらに良好な耐薬性を有することが証明されている。

投与方法、投与対象

本剤には単味製剤と、スルピリンを配合した複合製剤があるが、われわれは本剤の薬理効果を明らかにするため、単味糖衣錠のみを経口投与し、かつ他薬剤との併用はできるかぎりさけるようにした。すなわち、疾患、疼痛の程度によって異なるが、糖衣錠 (50mg) を1日4～6錠、2～3回分服投与し、患者にはかみくだかぬように指導した。また痙痛など、激しい一過性疼痛に対しては3錠を頓用として与えた。投与期間は2～7日である。投与対象は泌尿器科領域における

各種疼痛に対し、病因のいかんをとわずできるだけ広い範囲に応用した。したがって原疾患は多岐にわたっているが、疼痛としては結石その他による痙痛、炎症、器械的ないし化学的刺激による局所痛に大別されうる。とくに後者には、逆行性腎盂撮影時の造影剤腎盂内注入による痙痛および膀胱鏡施行時、後の尿道痛が主となっている。

症 例：

使用症例は30例であるが、対象別にすると、尿路結石で痙痛を伴ったもの12例で、腎結石3例、尿管結石6例、膀胱結石2例、尿管・腎結石合併例1例である。炎症性疼痛としては急性副睾丸炎2例、急性前立腺炎2例、腎痙痛症、神経因性各1例の計6例であった。また、逆行性腎盂撮影時の痙痛7例、膀胱鏡施行時の疼痛の5例に応用した。

効果の判定は症状の性格上、客観的裏づけが困難であるが、本剤の内服により、明らかに持続性の疼痛が消失したもの、および痙痛に対しては非投与例に比して疼痛の消失がすみやかで、内服後少なくとも30分～1時間以内に消失をみたものを著効とし、同様の状態で疼痛は明らかに軽減したが完全消失にいたらなかったものを有効、その他を無効とした。

結果は別表に示すごとくであるが、結石痛12例では著効7例、有効4例、無効1例と明らかに鎮痛効果が認められた。しかし、本剤の内服によって結石の自然下降を促進せしめたと思われる症例は経験していな

Table 疼痛に対する CG-201 錠の効果

No	症 例	年 令	性	疾 患 名	症 状	投 与 1 日 量	量 日 数	効 果	副作用
1	HK	26	♂	左尿管結石	血尿, 疝痛	6 Tab	5	+	—
2	YI	43	♂	右尿管結石	血尿, 疝痛	6	7	+	口 渴
3	FM	32	♀	右尿管結石	疝 痛	6	8	+	—
4	YA	32	♀	左腎結石 左尿管結石	血尿, 鈍痛	6	2	—	—
5	IO	25	♀	R P 施行後	疝 痛	3	頓 用	+	—
6	YH	41	♂	R P 施行後	疝 痛	3	頓 用	—	—
7	ST	46	♂	R P 施行後	鈍 痛	6	2	+	—
8	KA	53	♀	R P 施行後	鈍 痛	6	1	—	—
9	HN	34	♂	右単純性副睪丸炎	陰囊部鈍痛	6	2	—	—
10	KY	59	♂	両腎結石	鈍 痛	6	2	—	—
11	SN	27	♂	右尿管結石	疝 痛	6	5	+	口 渴
12	NN	40	♀	神経性頻尿	頻 尿	6	4	+	口 渴
13	KA	31	♂	R P 施行後	疝 痛	3	頓 用	+	—
14	YF	65	♀	膀胱結石	排 尿 痛	6	3	+	—
15	YT	35	♀	右尿管結石	疝 痛	6	4	+	—
16	TO	25	♂	R P 施行後	疝 痛	3	頓 用	+	—
17	KT	25	♀	R P 施行後	疝 痛	3	頓 用	—	—
18	MI	20	♀	腎疝痛症	疝 痛	6	3	+	—
19	RH	30	♀	右腎結石	疝 痛	6	4	+	—
20	TM	65	♂	膀胱結石 前立腺肥大症	排 尿 痛	6	2	—	排尿障害
21	SO	25	♂	右急性副睪丸炎	局 所 痛	6	2	—	—
22	TK	31	♂	急性前立腺炎	排 尿 痛 陰 部	6	3	+	—
23	TY	28	♂	左腎結石	鈍 痛	6	2	—	—
24	KN	27	♂	急性前立腺炎	鈍 陰 部 痛	6	2	—	—
25	YK	31	♀	右尿管結石	疝 痛	6	2	+	—
26	NK	35	♂	急性腎盂炎	尿 道 痛	3	頓 用	+	—
27	YO	65	♂	前立腺癌	尿 道 痛	3×2T	頓 用	+	—
28	KI	54	♂	右水腎症	尿 道 痛	3	頓 用	+	—
29	HN	25	♂	膀胱炎	尿 道 痛	3	頓 用	+	—
30	TT	63	♂	前立腺肥大症	尿 道 痛	3	頓 用	+	—

い、一般に内服後、20～30分にして疝痛は軽減して歩行等が可能となり、一部症例では局所の鈍痛を残すが、他は全く自覚症状の消失をみている。しかし、炎症に起因した局所痛に対しては急性副睪丸炎では2例ともに効果を認めず、前立腺炎2例においても1例に軽度の会陰部痛の軽減を認めたにすぎず、疾患の性格上当然とは考えられるが、結石疝痛におけるほどの効果は認められなかった。次に、逆行性腎盂撮影時の疝痛7例においては、著効1例、有効3例、無効3例の結果で、これも結石にみられるごとく顕著さはないが、疼痛の自然消褪時間を短縮せしめた。この種の腎盂内薬液注入時に併発する疝痛発作はきわめて個人差が

あり、同一注入量、速度でも激しい疝痛を訴える者と、全く異常を認めないものがあり、前者は尿管運動、腎盂内圧の変動に対しきわめて過敏な反応を示す者と考えられるが、従来、各種鎮痛剤の投与によっても、少なくとも2～3時間は疼痛の消褪をみず、外来患者においては、帰宅の指示に困却することが少なくなかった。しかし本剤が末梢臓器にのみ選択的に作用する点から考えて後述の器械挿入後の尿道痛同様、応用価値のあるものと考えられる。膀胱鏡施行後の尿道痛も原疾患の種類、手技の巧拙、患者の個人差によって多様であるが、激しい疼痛のため検査施行後、帰宅不能を訴えた患者(いずれも局所麻酔用粘滑剤使用)5

例のうち、本剤内服後30分～1時間以内に疼痛の消失したいわゆる著効3例、軽減によって歩行可能となった有効2例をえた。もちろん、この種の疼痛は時間の経過とともに自然消褪を認めることは当然であるが、その消褪までの時間を明らかに短縮せしめたと考えられる。この他、原因不明の腎疝痛症、神経性頻尿各1例に用い、ともに有効なる結果を収めている。

以上、各種泌尿器科的疼痛の30例に本剤を投与した結果は、著効10例、有効10例、無効10例で有効率66.6%の成績をえた。

ついで、逆行性腎盂撮影施行前30分にあらかじめ本剤を2～3錠頓用せしめた5例があるが、注入薬剤をかなり急速に注入したにかかわらず、1例に軽度の腎鈍痛を認めたにすぎない。この結果は、対象の非投与例における疝痛出現率に比し、明らかに差があり、本剤の予防的応用を示唆するものであるが、この点はさらに症例を増加して検討したい。また、腎疝痛患者では無処置時、経静脈性腎盂撮影において腎盂像がじゅうぶんに影像されなかったのに、本剤投与後30分に同様撮影施行時に判然とした腎盂拡張像を認めたことも

本剤の効果を物語っている。

なお、尿管蠕動の本剤による影響を検する目的で、膀胱鏡的に尿管口よりの排尿の時間的間隔および収縮状態を、同一人について本剤の内服前と後において比較した。しかし施行5例中、前後に大差を認めたものはなく、正常尿管運動に対しては抑制効果は軽度であると考えられる。

副作用としては前立腺肥大症兼膀胱結石の1例に本剤内服後、排尿障害の高度となった事実があったが、本剤の副作用というべきか否かは断定しがたい。また、3例に軽度の口渇を訴えたが、服用を中止するほどのものではなかった。

結 論

各種泌尿器科領域における疼痛30例に CG-201 糖衣錠を使用し、著効10例、有効10例、無効10例の結果をえた。結石様疝痛、尿道局所痛に対してはとくに顕著な鎮痛、鎮痙効果が認められた。

(1968年7月1日 特別掲載受付)